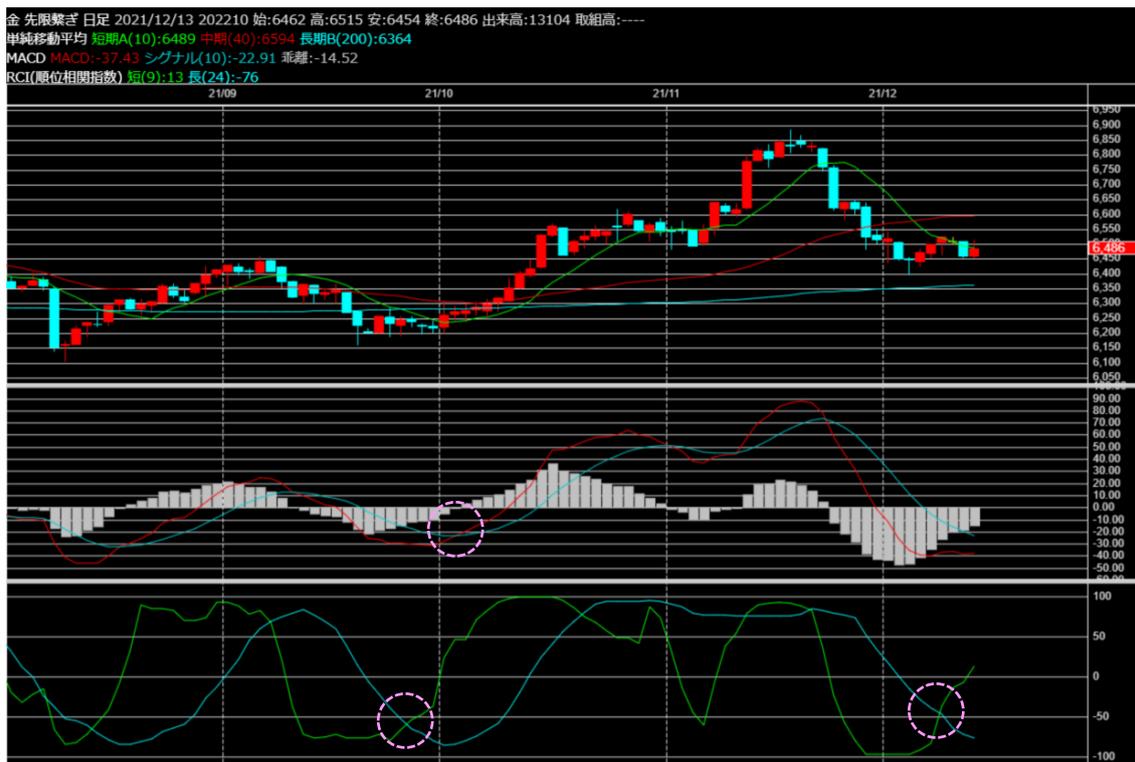


<金標準先物、FOMC 以降の出尽くし相場待ち・・・>



(出所：オアシス)

週末の消費者物価指数はコア部門で前年同月比 6.9%と 1982 年以来の大きな伸びを示し、パウエル FRB 議長の議会証言で「FOMC で資産購入を数ヶ月早期に終了する是非を議論するのは適切だと考える」と言及するなど今週 14、15 日に開催される FOMC では高進が続くインフレ動向について「一過性」の表現を取り下げ、来年の利上げ時期が予想より前倒しされる可能性が高まると見られている。

特に「金利を生まない金」にとって早期の利上げ観測の高まりは、ドル高の悪影響を受ける要因であり、金価格の戻りを抑える動きに結びつく状況である。そのため金標準先物価格も 15 日の FOMC 終了後に行われるパウエル FRB 議長の記者会見までは下値追いに注意が必要である。

しかし既に市場は早期の利上げ観測までは織り込まれており、FOMC までが一番のタカ派寄りの要因が市場を占めている。そのため相場格言の「知ったら仕舞い」の様相と同じである FOMC 以降は、下げ止まりからの高値追いに備える事が必要になるのではないかと。

<テクニカル>

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD では **MACD** が下げ止まり、**シグナル** が下がるなど乖離が縮小している。また RCI は**短期**が上昇し、**長期**が下げるなど目先の下値を確認した動きを示している。そのためテクニカルでは、10 月の上昇過程に移行する動きに類似しており、**MACD** と **シグナル** のクロスを待って新規買いを行うのが妥当と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 307,000 円(2021 年 12 月 13 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 31,460 円(2021 年 12 月 13 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>